
当院における在宅血液透析(HHD)普及へ向けての活動状況

医療法人衆和会 大村腎クリニック 長崎腎病院

○宮本教司 田口尚人 田中 健 林田征俊 矢野利幸
高木伴幸 前川明洋 船越 哲

【背景】

QOL や生命予後の観点から、有用性が評価されている HHD を、一人でも多くの透析患者が選択できるよう、当法人では 2015 年より普及に向けての活動を行っている。今回、当クリニックの開院の 2020 年 7 月から現在まで行ってきた活動と結果を報告する。

【目的】

当院での HHD 導入と HHD の普及を目指す。

【方法】

HHD という存在やその優位性について啓発する目的で、スタッフによる通院透析患者への声掛けやポスター掲示、市民公開講座の開催など患者・家族に認識してもらおう活動を実施した。

【結果】

一連の広報・推進活動により 4 名が HHD を希望し、2 名の指導を開始することができた。しかし、2020 年に始まった新型コロナ禍が患者・家族への情報提供に妨げとなっていることが推測された。

【考察】

推進活動にあたり、まず HHD の認知度の低さが患者またスタッフともに感じられた。今後は新型コロナは収束に向かうと思われ、推進活動の継続と更なる広報活動をおこない HHD の普及に努めたい。